

早めの対策で安心

第5回

## わが家で役立つ保険活用術

### ドライブレコーダーを心強い目撃者に

信号のある交差点で交通事故を起こして間もない現場を車で通りがかりました。翌日の新聞に「赤信号無視が原因の衝突事故で1人死亡」との記事が掲載されていました。後日、事故現場には目撃者情報の看板が立て掛けられており、正確な事故状況が分からず解決することが難しいようです。このような時、ドライブレコーダーの映像があればトラブルの正確かつ早期解決に役立ちます。



しかし、実際には「録画されていなかった」という事案もあるようで、ドライブレコーダーを取り付けてさえいれば安心というわけではありません。肝心なところで映像が撮れていなければドライブレコーダーの役割が果たせていないのです。

信号のある交差点での交通事故で、お互いに「信号は青だった」と証言していたとします。「ドライブレコーダーがあるので証拠を提出します」と強気だったにもかかわらず、実際には事故当時の画像が録画されていなかったという事案もありました。場合によっては、「信号を無視していたから提出できないのでは」と疑われてしまいます。録画されていない原因は、SDカードの不具合が多いようです。定期的に映像を確認するだけでなく、万全を期すのであれば1年に1度は新品のSDカードに交換しましょう。交換時の注意点として、電源が入ったままSDカードを抜くと記録された映像が破損する恐れがありますので、必ず電源を切ってから抜いてください。

事故を早期に解決するためにはドライブレコーダーは必要不可欠なアイテムです。人が一瞬で起こる事故の状況をすべて記憶することは難しく、曖昧になったことによって当事者間の言い分が食い違い、解決が長引いてしまうケースもあります。事故の真実は1つです。このような事案を防ぐためにも、ドライブレコーダーという心強い目撃者を取り付けている方は、定期的に点検をしていただく事をお勧めします。



越川 周一

協力：総合保険代理店サンツクバ(株)

2級ファイナンシャル・  
プランニング技能士